



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-330312

(43) 公團日 平成9年(1997)12月22日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>

**識別記号**

庁内整理番号

FI

### 技術表示箇所

**G O B F 17/21**

**G O B F 15/20**

**570A**

570D

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平8-150732

〈22〉出願日 平成8年(1996)6月12日

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(72) 発明者 秋山 由希子

神奈川県横浜市戸塚区戸塚町5030番地株式

会社日立製作所ソフトウェア開発本部内

(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

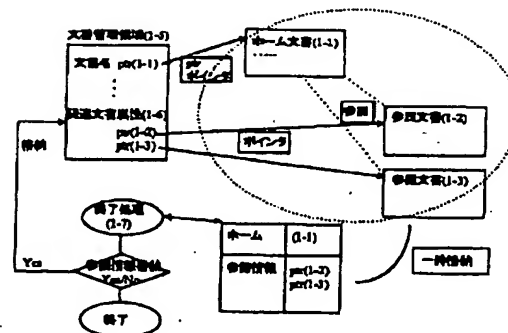
《54）【発明の名称】 文書管理方式

(57) 【要約】

【課題】従来の文書管理方式は、格納時関連文書を関連つけるためには、利用者がメモをホーム文書に書きつけることでしか実現できない方式であった。このため、利用者が、文書に基づいて作業を始める際利用者自身が必要な文書を開いてそろえるしかなく、メモをつけ忘れると、関連する文書を取り出すことが困難になる問題点があった。

【解決手段】図1において、該当ホーム文書（1-1）とそれ二関連する参照文書（1-2）、（1-3）の関連付け情報を一時的な参照スタック（1-4）に自動的に格納し、ホーム文書（1-1）の格納時に必要な参照文書のみへの関連付け情報を文書管理領域（1-5）中の関連文書属性情報（1-6）に格納する。次回以降該当文書を開いたとき、関連文書管理領域（1-5）に格納されている関連文書属性情報（1-6）にもとずき必要な関連文書（1-2）を取り出せるようにする。

1



(2)

特開平 9-330312

1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 関連する文書を自動的に関連つける自動文書管理方式において、一番最初に開いた文書、ホーム文書(1-1)と、そのホーム文書に関連して開いた参照文書(1-2)、(1-3)とその関連を一時的に格納する参照スタック(1-4)と、最終的にホーム文書の関連属性情報(1-6)として参照関係を格納するための文書管理領域(1-5)を備え、ホーム文書(1-1)を開いた際に、関連して開いた複数の文書(1-2)、(1-3)を参照スタック(1-4)に自動的に格納しておき、ホーム文書(1-1)を閉じるとき、その参照スタック(1-4)情報を文書管理領域(1-5)に格納するか否か、あるいは編集するかを利用者に問い合わせ必要な文書(1-2)のみ格納し、次回以降該当文書を開いたとき、関連文書管理領域(1-5)に格納されている関連文書属性情報(1-6)にもとずき必要な関連文書(1-2)を取り出せるようにすることを特徴とした文書管理方式。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、関連する文書を自動的に関連付け管理する文書管理方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来の文書管理方式は、利用者の指示に従い必要な文書を開き、格納時関連文書に関連つけるためには、利用者がメモをホーム文書に書きつけることでしか実現できない方式であった。このため、利用者が、文書に基づいて作業を始める際利用者自身が必要な文書を開いてそろえるしかなく、メモをつけ忘れると、関連する文書を取り出すことが困難になる問題点があった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、ホーム文書の関連属性情報に、参照文書情報を(半)自動的に格納しておき、該当ホーム文書を開いたとき、その情報に基づき容易に必要な関連文書を取り出せるようにすることを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】 図1を参照して問題点を解決するための手段を説明する。

【0005】 図1において、一連の作業で開かれる文書群が、ホーム文書(1-1)とそれに関連して開かれた参照文書(1-2)、(1-3)から構成されている。

【0006】 参照スタック(1-4)は、一時的な該当文書群の関連付け情報を管理格納するものである。

【0007】 文書管理領域(1-5)は、文書の特性を格納するとともに参照スタックに格納された関連情報から、利用者の編集によって、最終的に確定した関連付け情報をホーム文書の関連文書属性情報として管理格納するものである。

【0008】 関連文書属性情報(1-6)は、該当文書

2

に関連する文書群の格納場所情報である。

【0009】

【発明の実施の形態】 次に、図1と図2を用いて本発明の一実施例の構成及び動作を詳細に説明する。

【0010】 図2において、文書格納庫(2-1)は、文書管理情報(2-2)と該当文書(2-3)を格納するものである。文書管理制御(2-4)は、GUIを有するPCあるいはWS(2-5)からの利用者の要求に基づき指定された文書(2-3)を取り出す。

【0011】 図1と図2において、新たな文書が作成される場合、起動された文書管理(2-4)制御は、作成された文書(1-1)と関連して参照された文書(1-2)、(1-3)両方を参照スタック(1-4)に格納する。文章作成が完了したところで、文書プログラムは、終了処理(1-7)を起動しPCあるいはWS(2-5)をとおして利用者に参照文書を登録するか否かの問い合わせを行う。利用者は、登録すべきか否かを判断し必要な参照文書を指定すると、文書プログラムは、指定された文書(1-2)を文書格納庫(2-1)の文書管理情報(2-2)の関連文書属性情報(1-6)として格納する。但し、この終了処理は、必須ではなく自動的に行うことができる。

【0012】 図1と図2において、格納されている文書を取り出す場合、起動された文書プログラムは、文書格納庫(2-1)から指定された文書(1-1)を取り出す際、文書管理情報(2-2)の関連文書属性情報(1-6)を参照し、関連文書を合わせ利用者のPC/WS(2-5)の画面に呼び込む。PC表示画面上は、ホーム文書がいちばん上に表示され、参照文書は、その裏に表示されるか、アイコン化して表示しておく。処理完了時の処理は、新たな文書作成時と同様に、必要な参照文書を再登録する。これにより、最新の参照関係が保証される。

【0013】 図2と図2において、格納されている文書(1-1)を削除する場合、起動された文書プログラムは、文書格納庫(2-1)から指定された文書(1-1)と該当文書管理情報(2-2)を取りだし両者を削除する。

【0014】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明によれば、文書格納庫(2-1)に格納されているホーム文書とその関連文書属性情報(1-6)を格納する文書管理情報(2-2)に基づき文書管理プログラムが自動的に関連文書をホーム文書に登録し、また呼び出してくれることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本図面は、本説明の論理構成図を示したものである。

【図2】 本図面は、プログラム構成図を示したものである。

(3)

特開平 9-330312

3

## 【符号の説明】

(1-1) …該当ホーム文書を示す。

(1-2) …該当ホーム文書(1-1)に関連する参照文書を示す。

(1-3) …該当ホーム文書(1-1)に関連する(1-2)とは別の参照文書を示す。

(1-4) …該当ホーム文書(1-1)を参照したときの参照情報、すなわち参照文書へのポインタをスタックする参照スタックを示す。

(1-5) …該当ホーム文書(1-1)の文書管理情報 10  
属性を格納する文書管理領域を示す。(1-6) …該当ホーム文書(1-1)の関連する参照  
文書へのポインタ情報などを格納する該当ホーム文書

4

(1-1)の関連文書属性を示す。

(1-7) …終了処理を示す。

ptr(1-1) …該当ホーム文書へのポインタを示す。

ptr(1-2) …該当ホーム文書(1-1)に関連する参照文書へのポインタを示す。

ptr(1-3) …該当ホーム文書(1-1)に関連する(1-2)とは別の参照文書へのポインタを示す。

(2-1) …文書格納庫を示す。

(2-2) …該当ホーム文書の文書管理情報を示す。

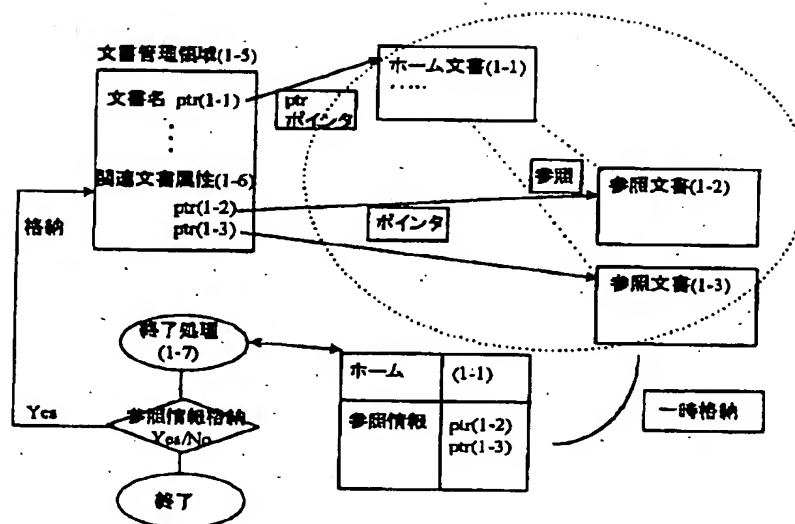
(2-3) …該当ホーム文書の文書本体を示す。

(2-4) …文書管理制御を示す。

(2-5) …GUIをもつPC/WSを示す。

【図1】

図1



(4)

特開平 9-330312

【図2】

図 2

